

読売理工医療福祉専門学校

学校関係者評価 報告書

2021 年度・第 1 回

2021 年 7 月 29 日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業役職員等の学校関係者を委員として選任し、学校が実施した自己評価結果と取り組みに対する評価する。

委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言する。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

2. 2021年度 第1回学校関係者評価委員会

2020年度における各学科の各評価項目の取り組み状況と重点目標に関する取り組み状況を報告し、委員の方々に評価とご意見・ご提案を頂いた。

- ・日時：2021年7月29日（木）18:30～19:30
- ・場所：読売理工医療福祉専門学校 306教室

3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者

【出席委員と学校側関係者】

【学校関係者評価委員】（敬称略・順不同）

- ・渡部 俊一：OB・理工専校友会会長
- ・池上 清美：保護者・放送映像学科2年生
- ・杉田 明治：地域住民・文京区礪川地区町会連合会 会長
- ・羽場 宏祐：企業等・放送映像学科
- ・鹿毛 信一：企業等・建築系学科
- ・小嶋 守：企業等・電気電子学科
- ・伊藤 大輔：企業等・臨床工学系学科
- ・大庭 尚子：企業等・介護福祉学科

【学校側委員（オブザーバ参加含む）】

- ・松井 敏宏：理事長
- ・吉山 隆晴：法人本部長兼事務局長
- ・渡邊 敏章：校長
- ・水落 清治：校長補佐兼放送映像学科長
- ・小川 貴之：建築系学科長
- ・秋田谷徳靖：電気電子学科長
- ・沢田 雄太：臨床工学系学科長
- ・曾我 辰也：介護福祉学科長
- ・小野 恭子：留学生相談室副室長
- ・黒須 永喜：総務室長

【議 事】

1. 報告事項ならびに取組み事項
2. 昨年度挙げた重点項目の報告
3. 2021年度教育活動その他の学校運営
 - ・各学科の教育運営報告
 - ・授業運営ガイドラインについて
 - ・その他
4. 質疑

5. 評価委員から意見・講評
6. 2021年度の重点項目について

4. 配布参考資料等

- 2021年度 第1回学校関係者評価委員会 報告事項
参考資料1 2021年度「教育活動その他の学校運営」
参考資料2 2021年度「学科の状況報告」
参考資料3 緊急事態宣言発出後の教育運営ガイドライン 上半期
参考資料4 除籍退学者事由関連資料

5. 報告事項

① 学科の体制

建築士専攻科・ケアキャリア養成の2学科を廃科し、放送映像学科定員を20名増員し60名から80名に変更した。入学者はコロナ禍の募集であり295名と昨年の378名を大きく下回った

② 卒業率と就職

コロナ禍で求人数が減少する厳しい状況の就職活動であったが、93%の就職率であった。

③ 修学支援新制度について

昨年度の修学支援新制度対象者となった在學生は46名であった。

④ 2020年度の重点項目とその進捗状況は次の通りである。

- ・ **新型コロナウイルス感染に対しての感染予防策に努め、学生・教職員の安全を確保する。**

4月の緊急事態宣言発出により学校施設の利用も制限されたが、5月末に「第一次 新型コロナウイルス感染症防止対策と授業開始にあたっての教育運営ガイドライン」を定め、講義科目については遠隔授業をスタートさせた。緊急事態宣言解除後の7月より、学生の健康観察と登校時の検温・手指消毒を徹底し、実習科目についても分割分散型にて授業を開始した。一時収まりを見せていた感染者数が、11月中旬から急激な増加傾向となり文部科学省から感染予防の徹底について周知事項が出され、教職員・学生に改めて気の引き締めを行い、学生が休憩に利用する学生ラウンジや自習室・図書館については、アクリル等で飛沫感染対策を取り、全ての教室には机上等消毒用のアルコール不織布等を設置し学生・教職員の安全を確保した結果、校内におけるクラスターの発生を防ぐことが出来た。

- ・ **除籍退学率10%以下を目標として学生の指導にあたる。**

今年度の除籍退学者は72名（除籍3名・退学69名）となった、退学者の退学理由は22%が自己都合、19%が進路変更となっている。この自己都合は「コロナ禍でのアルバイト収入の減」と留学生の割合が多く、進路変更については「自分のやりたいことが別にある」と新卒者が多く占めていた。退学の時期としては学年末の3月が7割近くとなった。

前期は、オンライン授業での授業理解度の把握が難しく、さらに後期以降も感染拡大が収まらず、対面による面談が出来ないことから学生個々の状況を把握できず、卒業進級時を迎えてしまったためと考えられる。

来年度は、対面授業を増やし、学生との面談機会を増やす等のこまめな学生指導を組み立て、除籍退学率を減少させたい。

- ・ **感染予防に務めながら、本校特色である実践的教育の質を確保する。**

ICTの充実した新校舎において、7月以降は「第2次感染防止策を踏まえた教育運営ガイドライン」を設け、実験実習の分割分散型対面授業を増やし、実践的面での教育の質を確保に務めた。

※ 以降、学科の状況、教育運営ガイドライン、除籍退学率に関して配布した資料を基に報告を行った。

6. 委員からの意見

- ・ 学生のワクチン接種についてですが、接種しやすい環境を整備してはどうか
- ・ コロナ禍が収まったら地元との交流を積極的に行って欲しい。
- ・ 学校玄関の検温と手指消毒を見れば感染対策がしっかりしている証だ
- ・ リモートの授業だけでは刺激が少ないのではないか
- ・ 学生募集にTVスポットなど活用してはどうか
- ・ 就職活動もコロナで企業説明会などオンラインになり指導をしっかりして欲しい
- ・ インターンシップや企業研修など早めに復活をして欲しい
- ・ 入学式や卒業式など工夫をして実施していると報告を受け安心した。
- ・ 校内の感染対策はガイドラインに沿ってしっかりと実施して欲しい。
- ・ 学生とのコミュニケーション場を出来るだけ作ってもらいたい。
- ・ 学修の質は落とさないで欲しい。

7. 今年度の重点項目

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を確実にしながら、専門学校としての実践的な技術を身に付ける。学生の教育と人間力を併せて確実に教授できるように、次の2点に重点を置きたい。

- ① 感染予防策に努め、学生・教職員の安全を確保しながら、教育の質を落とさぬ教育運営。
- ② リモート授業等によるコミュニケーション不足による退学者の減少に努め、除籍退学率の目標を10%以下とする。

8. 委員からの評価と意見（評価点：5点満点）

評価に関して段階（5＝申し分ない・4＝十分である・3＝標準的・2＝努力を要する・1＝（不十分である）

● 昨年度の重点目標 ①学生・教職員の安全確保の評価（4.63）

- ・ 感染予防に対処され「教育運営ガイドライン」を設けられ、オンライン授業も駆使され教職員の方々は努力されていると感じます。
- ・ 昼食時間を無くして続けて授業をする。ワクチン接種のための欠席を公欠にする。素晴らしいことと思います。
- ・ 学校構内のコロナ対策は十分と言える。リモート授業、作品制作時における学生へのコロナ対策指導も継続してお願いします どうしても対面学習や体験学習など必要な授業がありますが、今出来ることを必要な限りされていると感じました。
- ・ 学内では、遠隔授業・アクリル板の設置・入口の検温など対策をしっかりとしており、なかでも授業のスケジュール調整による、昼ご飯の廃止はとても有効な対策であると思う。難しいが、学外や休日時の規定もあれといいと思う。

- ・ コロナ禍の中で、感染防止を学校全体で行っていると思います。また、授業についても、リモートで授業等取り入れ、がんばっていると思っております。
- ・ 昨年に続き、コロナ禍での安全は、十分に確保して頂いていると思います。ご苦労も多々あると思われませんが、引き続き、宜しくお願いします。
- ・ 努力されていると感じております。
- ・ コロナ（デルタ株）の感染力の強さから、教職員初め、学生のワクチン接種を受けられるよう、設けた休みはとても評価できる。人と関わることの多い学科ならワクチンの接種 100%を目指してほしい。

● 昨年度の重点目標 ②除籍退学率 10%以下目標の評価 (3.63)

- ・ 臨床系学科の2~3年生の退学者が目立つのはやはり人の命を預かることもある科目の難しさでしょうか。
- ・ 3月に突出している。年末位にコミュニケーションを取って対策をする。
- ・ コロナによるリモート授業は学生の期待するキャンパス生活（新しい友人との出会い、コミュニケーション、等）。とは違った疎遠感を増幅させていると思います。学生との一体感を持てる工夫が必要かと思えます。
- ・ オンライン授業主体の中の除籍率としてはとてもいいと思うが、臨床工学の3月の除籍率が少し気になる。オンラインの弱点である、学力の低下や個々の学力の把握を打開するため、理系分野や毎年の生徒が苦手とする分野での対面授業の強化と、モチベーション維持の為の対策を行う事が大事であると思う。
- ・ かなりの部分で年々良くなっていると思います。特に生徒さんとのメンタルケアなど適切に対応している感じがします。
- ・ コロナ禍での経済的理由は避けられないものもあると思われませんが、やはり対面授業の時間数がもう少し確保できると、退学率も減らせるでは思いません。
- ・ 色々な理由があるにしても、学校経営のことや生徒本人のためにも努力を続けて下さい。
- ・ 専門学校のため大学よりも専門性の濃い内容の学習内容と職業選択になるので、あわないあるいは成績が振るわない学生もいると考えます。ほぼ10%以下の学科が多いし、専任教員の方々のフォローも十分にされているところもあり、十分であるという評価にしました。

● 昨年度の重点目標 ③実践的教育の質を確保の評価 (3.88)

- ・ 新型コロナウイルス禍の中で、教職員の方々の学生さんたちのためのご努力に頭が下がります。
- ・ コロナ禍での実践教育は難しいですが、ビデオ・リモートを活用してほしいです。
- ・ 地球の温暖化に伴う新ウイルスの発生は長期化する可能性があります。学生のモチベーションを向上させるリモート授業の工夫が求められます、又、マスク着用はお互い顔が分からず近親感をスポイルします。学校内での対面授業では顔が分かる飛沫を遮る透明マスクの使用などの工夫が必要かと思えます。
- ・ コロナ化での現場実習制限など、なかなか厳しい環境ではあるが、少しでも実践に近い学内での実戦形式の実習方法を見つけられたらいいと思う。私は

病院という環境の中で生徒たちが現場を見ることが出来るような環境を作れる努力をしていきたいと思う。

- ・ この学生に学習指導や生活指導もさることながら、個別面談も含むカウンセリングなど、教員の方と生徒さん達のコミュニケーションに力を注いで欲しいと思います。
- ・ 学科によっては、もう少し対面授業があった方が良いのかと思いました。
- ・ コロナ禍において、先生方の努力を感じております。
- ・ コロナ禍の中 ZOOM での授業や祖業時間の繰り下げ、ハイブリッドでの授業形式等の方法を考え実践しており、十分な質は確保できています。

● 2021年度 教育活動その他の学校運営の評価 (4.00)

- ・ コロナ禍の募集であったので、専門学校も大変であると感じます。
- ・ 頑張っていると思う。
- ・ コロナの為、学生の皆さんが文京キャンパスを十分満喫できないのが残念ですが、現状の社会環境の中、学校運営、教育促進、危機管理など教職員一丸となり努力している。
- ・ 学科編成などの取り組みは評価出来ると思う。コロナ化で大変だが、オープンキャンパスや高校での説明会などの活動を出来る限り実施し、生徒の確保に努めるといいと思う。就職に関しては、読売グループの利用などに太いパイプを作れている点は非常に良いと思うし、生徒確保時に読売グループのアピールも有効かと思う。
- ・ この少子化の中、定員に満たないまでも、ほぼ確保しているのは、学校側の職員の方や教員の方の努力の賜だと思います。このまま進んで行くことを期待いたします。
- ・ コロナ禍で生徒募集は本当に大変なことと思われませんが、新しい校舎で、十分は安全を確保して下さっているところを前面に出し、新入生確保が出来ること事を期待します。
- ・ コロナ禍の中でよく考え活動されていると感じます。
- ・ 地域のイベント参加等、コロナ禍の中で活動出来ていない状況があり、学生・学校側ともにつらい思いをされていると思います。メディア関係の学科もあるので工夫して、地域等への発信、学内行事の実施等出来れば良いと思います。

● 授業運営ガイドラインについての評価 (4.25)

- ・ コロナ禍ですが最善のご努力を実行されていると感じます。
- ・ 対面授業、実践授業の不足分、コミュニケーション不足の対策が必要と思う。
- ・ 長引くコロナ緊急事態宣言発出時の学生、授業、等への3密回避を臨機応変に徹底した対応をしている。十分対策徹底した環境の中、専門学校とし実習授業は対面で行っている。
- ・ 感染のガイドライン作成や授業時間の繰り下げなどの取り組みは高く評価出来る。感染拡大していくなかで、生徒の行動に沿った感染のガイドライン作り、具体的には通学時、アルバイト時や家庭での対策等も入れていくとさらにいいと思う。
- ・ きめ細かいガイドラインを設けて、よくやられていると思います。特にコロナ対策はきめ細かく行っていると思います。
- ・ 現在の状況下で、感染防止を徹底しながらの対面授業は難しいと思われませんが(生徒・保護者側としては、)もう少し時間数が欲しいところであります。

- ・ ワクチン接種後の授業の運営等も考えられていて良いと感じました。
- ・ わかりやすい内容とタイミングであり評価できる。学校の孢子や対応等をタイムリーに発信し、学生や教職員の安全安心を担保して欲しい。

● 学校運営に関する全体の評価 (4.13)

- ・ コロナ禍の難しい時節ですが、頑張っ頂きたいと存じます。早く地域と学生さんたちの交流が出来ればと思います。
- ・ コロナ禍、色々な対策をねって頑張っていると思う。
- ・ 未曾有のコロナ蔓延の中、学院一体となり教育課程、授業、実習の工夫を行っている。 コロナによる次年度の入学者数(減少?)が気になります。退学者を減らす工夫。 時期を見て募集TVスポットCMを打ったらどうか?
- ・ コロナ化でいろいろな制限がある中での運営はとても厳しいと思う。その中でとても工夫している点は評価出来ると思う。遠隔授業と対面授業のバランスと、その中で生徒の学力把握やそのためのコミュニケーションを更に充実させて欲しいと思う。遠隔授業の中でも小テストの実施や意向調査の数を増やして行くといいと思う。
- ・ 今後は、コロナが落ち着きましたら、外での課外授業や現場での見学など、実際に目で見ることが必要かなあとと思います。
- ・ コロナ禍での入学者減少は避けられないと思われませんが、この状況下で就職率93%というのは大きなセールスポイントではないでしょうか? 難しと思われませんが、分割対面授業の時間数の確保が、退学者等を減少させられるのではないかと、改めて感じました。
- ・ 入学式や卒業式を学科ごとにかまわないので、オンライン等で出来ないでしょうか
- ・ コロナ禍における、「ニューノーマル」の確立とタイムリーな情報発を今後も続ける必要を感じる。また、来年度の入学生の確保も大事であると思いません。

● 2021年度の学校運営・教育活動に関する意見

- ・ コロナ化で感染対策、実習先の確保、遠隔授業、就職活動とどれも大変だと思うが、いろいろな対策を実施し、工夫している事はとても評価出来る。まずは生徒数を定員まで確保するために、オープンキャンパスや説明会、Hpの充実をはかり、その中で就職率の高さ、資格取得率の高さ、また読売グループであることの就職への強みを前面に出していくといいのではないかなと思う。また遠隔事業の中でも生徒のことを把握するため、1か月に1度などの短いスパンで、小テストやオンライン面談などを積極的に行うといいのではないかなと思う。また、職域接種等、生徒へのワクチン接種を行えるように、いろいろな方面で手段を模索して欲しいと思う。
- ・ パンフレットはわかりやすく、きれいで、みやすいかったです。ホームページもきれいで、必要な情報まで、たどりつきやすく工夫されていました。(1度開くとクッキーにより何度もバナーが出て来ます)

9. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた意見・提案は、来年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

以上